

ひょうごの遺跡

平成14年5月1日発行
兵庫県教育委員会
埋蔵文化財調査事務所
神戸市兵庫区荒田町2-1-5
〒652-0032 TEL078-531-7011
FAX078-531-7014
ホームページアドレス
<http://www.hyogo-c.ed.jp/~maibun-bo/>

但馬の王と鏡

わかす
若水古墳群A11号墳の調査

平成13年10月～12月に実施しました朝来郡山東町にある、若水城跡・若水古墳群の調査では、大変貴重な成果を得ることができました。本号ではその成果をお伝えいたします。

若水古墳群A11号墳は直径40mの円墳です。埋葬施設は2つあり、約10m×5mの大きさの墓穴（第1主体部）と約7m×4mの大きさの墓穴（第2主体部）です。そのうちの大きな第1主体部（次ページ写真参照）から2面の銅製の鏡が出土しました（下写真）。

右の鏡は弥生時代末から古墳時代前期に多く見つかる内行花文鏡という鏡です。左の鏡は、飛ぶ鳥がモチーフの飛禽鏡と呼ばれるもので、日本での出土が十数例しかない珍しい鏡です。中国大陆や朝鮮半島からの輸入品の可能性があります。

あさこぐんさんとう
朝来郡山東町



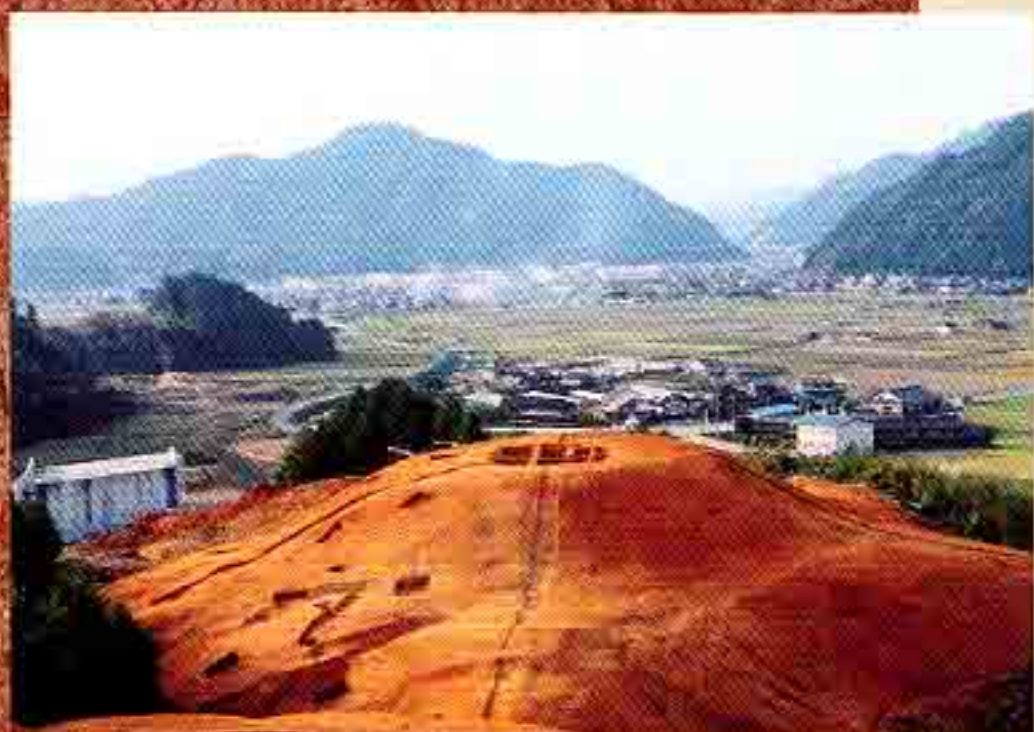
左：飛禽鏡（径約9cm）
右：内行花文鏡（径約14cm）



縮尺ほぼ1/2



若水古墳群 A11号墳



A11号墳の第1主体部には長さ約6.2m、幅約1mの木棺が納められており、2つの鏡は被葬者の頭の左右にそれぞれ置かれていました。このほかに鉄器や漆製品が出土しています。また木棺を埋める時に2本の柱を立てた痕跡が見つまっているため、埋葬に際して何かのお祭りが行われたことがわかります。

第2主体部には長さ約5.5m、幅約0.8mの木棺が納められていました。ここでは小さな鉄製のナイフ（^{とうす}刀子）が1点と、直径2mm～4mm程度のガラス小玉が50点以上出土しています。

これら2つの埋葬施設は左写真のように、木棺の両端に石を積むという構造を持っています。さらに第2主体部では、木棺の下に板状の平らな石を敷き詰め（下写真参照）、横にも石を並べて壁を造っていることがわかりました。



この古墳にみられた、木棺の両端に石を積む構造に似た例として京都府舞鶴市川向^{かわむかい}古墳群がありますが、全国的にみてもこのような特徴をもつものは多くありません。また第2主体部の珍しい構造に似た例は、今のところまだ見つかっていません。

ところで、A11号墳からは土器が出土しておらず、副葬品にも時期を決められるものが少ないために古墳が造られた時期の決定は難しいのですが、出土した鏡の特徴や墳丘の形などから、古墳時代前期と考えています。

第2主体部は、その墓穴が第1主体部の墓穴を壊しているものの、第1主体部の木棺を避けるような位置に造られていること、また珍しい構造にもかかわらず第1主体部と類似した埋葬施設を造っていることなどから、第1主体部とあまり時間をおかない時期のものと考えてよいでしょう。

第1主体部出土鏡の検討からすると、当古墳は南但馬における最も古い大型古墳であり、当時の墓の造り方や墓を造った人々の権力関係を研究するための重要な資料となります。





若水城跡

若水城跡は横堀と土塁により、山頂部の細長い平坦面を取り囲んで主郭とする形態の山城跡です。今回は城跡の一部の発掘調査でしたが、大変貴重な成果を得ることができました。

横堀は幅・深さとも約3mの規模であり、その断面は「V」字形となっていることが分かりました。そして最大の発見は、山頂平坦面の先端部に石積み虎口（出入り口）の存在を確認したことです。この虎口は、横堀内側の切岸と呼ばれる防御用の急斜面に向かって開いていることから、出入りするために階段あるいは梯子を架けていたものと想定されます。こうした虎口構造が発掘調査されたのは、全国でも初めてのケースです。

横堀・土塁・石積み虎口といった城造りの特徴は、織田信長と豊臣秀吉が天下を統一する過程で造ってきた城跡によく見られることから、但馬では数少ない織豊系城郭であることがあきらかとなりました。但馬でこうした城が造られるのは、羽柴秀吉（後の豊臣秀吉）が但馬攻めを行った天正5年（1577）以降のことですが、今回の調査では城跡の時期を確定できていません。ただ位置的に、当時の但馬守護職である山名氏が攻め降りてくる北の方向と、丹波国との国境となる東の遠阪峠の両方を一望できる場所に立地することなどから、居城ではなく、但馬攻略の戦鬭を目的とした“陣城”であると考えています。



その他の遺構

古墳と城跡のほかに、古墳時代前期の土器棺墓や古墳時代中期の墓、平安時代の土坑なども見つかりました。別の調査区では、古墳時代初頭から中期にかけての、丘陵を削って階段状に造られた古墳群を調査し、鉄刀や鉄鏃、祭りのための土器などが出土しています。長さ約50cm～60cmという小さな石棺墓群も発見されました。



まとめ

若水古墳群の周辺は古墳が数多く造られた場所で、但馬最大の前方後円墳である池田古墳や、三角縁神獣鏡が出土した城の山古墳などがあります。A11号墳はこれらよりも古く、大型の墳丘と貴重な副葬品をもつことから、但馬における王墓の一つと考えられます。また当遺跡の所在する山東町は、西の和田山町と合わせて交通の要に位置しており、戦国時代に多くの城郭がこの地に営まれていることの原因にもなっています。



とうなん
東南遺跡



古墳時代初めの溝から大量の土器が出土
(太子町)

あわが
粟鹿遺跡



伊能忠敬も歩いた道
(山東町)

おおの
大野遺跡



加古川舟運の拠点か？
(加古川市)

平成13年度

の
主な

ちょうさ
調査

ふたつ いしえびす まえ
二ツ石戎ノ前遺跡



朱を精製する弥生人にびっくり！
(洲本市)

なかつ はら
中津原遺跡



弥生時代のムラの跡を発見
(洲本市)

ほう たに
方谷古墳群



よりそって並ぶ主体部
(山東町)

ひょうごの遺跡 43号

じゅう かい
十ノ貝遺跡



古墳時代末の住居を復元
(市島町)

の さか おお たに
野坂大谷古墳群



丹波の森は古墳がいっぱい
(山南町)

せい しん
西神ニュータウンNo.62号遺跡



ニュータウンの隣に古代のムラ
(神戸市西区)

あり おか じょうせき いた み ごうちょう
有岡城跡・伊丹郷町



有岡城の堀の断面 (伊丹市)

三沢迦山 北麓の遺跡

灰高古墳群・ずえが谷遺跡他

篠山市

篠山市の西部、旧多紀郡丹南町の三沢迦山^{みしゃか}北麓には、弥生時代中頃から古墳時代終わり頃までの遺跡が数多く分布しています。県立丹波並木道中央公園整備事業にともなって平成11年度から遺跡の発掘調査を行ってきましたが、平成13年度ですべての調査が終了しました。

灰高古墳群・ずえが谷遺跡他は、『ひょうごの遺跡』40号で紹介した桂ヶ谷遺跡より更に西側の、篠山川を望む丘陵上や緩やかな傾斜地に立地しています。平成13年度の調査では、古墳時代の集落跡や弥生時代の周溝墓・横穴式石室の古墳などのお墓も多く発見されています。



- 1 古墳の形と石室が徐々に現れてきます
- 2 出土した土器を図面に記録しています
- 3 説明会では石室や土器にぐっと近づいて見学していただくことができました
- 4 住居跡や落とし穴など多くの遺構が発見されました
- 5 落とし穴でイノシシを獲るつもりが人が落ちてしまいました



| 遺跡名 | 調査場所 | 事業名 | 調査の概要 | 参考 |
|------------------|-----------|-------------------------|---|-------------------|
| 若水城跡 | 朝来郡山東町栗鹿 | 一般国道483号春日和田山道路Ⅱ | 弥生時代後期の木棺墓、古墳時代後期の木棺直葬墓・箱式石棺。縄文期の陣城の一部(二重虎口、二重横堀等)。 | 本号で特集 |
| 栗鹿遺跡 | 朝来郡山東町栗鹿 | | 中世～近世の栗鹿神社参道と思われる道路遺構、弥生時代後期の竪穴住居2棟、方形貼石墓1基。 | 本号4頁 |
| 茶すり山古墳他 | 朝来郡和田山町筒江 | | 古墳時代中期の埴輪を持つ円墳。 | |
| 方谷古墳群他 | 朝来郡山東町柴 | | 古墳時代中期～後期の円墳5基。 | 本号5頁 |
| 十ノ貝遺跡 | 氷上郡市島町下竹田 | 国道175号竹田道路公共道路改築事業 | 7世紀代の竪穴住居、15世紀頃の掘立柱建物等。 | 本号5頁 |
| 田ノ口遺跡 | 氷上郡青垣町遠阪 | 一般国道483号春日和田山道路Ⅰ | 中世の掘立柱建物等。 | |
| 土井遺跡 | 氷上郡青垣町遠阪 | | 古墳時代後期・中世の集落跡。 | |
| 中佐治古墳群他 | 氷上郡青垣町中佐治 | | 古墳時代中・後期の古墳6基。竪穴系横口式石室。 | |
| 灰高遺跡他 | 篠山市大山下 | 丹波並木道中央公園整備事業 | 古墳時代後期の集落跡。 | 左頁 |
| 灰高1号墳他 | 篠山市大山下 | | 弥生時代中～後期・古墳時代後期の集落跡、横穴式石室墳4基。 | |
| 桂ヶ谷遺跡他 | 篠山市大山下 | | 弥生時代中期・古墳時代中～後期の竪穴住居・木棺墓等。弥生時代の石剣。木棺墓から鉄刀・玉類。 | |
| 野坂大谷古墳群 | 氷上郡山南町野坂 | (砂)西大谷川災害復旧緊急砂防事業 | 古墳時代後期～終末期の横穴式石室墳9基。小竪穴式石室。馬具・鉄鏃等。 | |
| 上三河遺跡 | 佐用郡南光町上三河 | (主)若桜南光線道路改良事業 | 弥生時代中期の竪穴住居2棟、掘立柱建物7棟、木棺墓・土坑墓10基、古墳時代後期の竪穴住居1棟等。 | |
| 竹万宮ノ前遺跡 | 赤穂郡上郡町竹万 | (主)姫路上郡線住宅宅地関連道路整備促進事業 | 弥生時代終末～古墳時代初頭の竪穴住居2棟、古墳時代のコンパス文をもつ須恵器器台片。 | ひょうごの遺跡 42号で特集 |
| 東南遺跡 | 揖保郡太子町鵜 | (主)太子御津線〔街路龍野線〕都市計画街路事業 | 縄文時代後期の土坑、弥生時代末～古墳時代前期の土器を多量に含む流路。 | |
| 今宿遺跡他 | 姫路市西今宿 | 緊急街路整備事業山吹線 | 平安時代末頃の掘立柱建物・石組井戸・溝等。 | |
| 豆腐町遺跡 | 姫路市南畝町 | JR山陽本線等連続立体交差事業 | 中世・奈良・弥生時代の3面の遺構面を確認。柱穴等。 | |
| 溝之口遺跡 | 加古川市加古川町 | JR山陽本線等連続立体交差事業 | 平安後期の掘立柱建物6棟、土坑墓1基・溝等。 | |
| 大野遺跡 | 加古川市加古川町 | (一)別府川広域基幹河川改修事業 | 古代～中世の集落跡。掘立柱建物・井戸・堀。古丹波焼・中国製青磁等。 | 本号4頁 |
| 下大部岡ノ山遺跡 | 小野市田園町 | 県営小野久下山住宅(第2期)建設事業 | 平安時代後期～鎌倉時代前期の掘立柱建物4棟等。旧石器時代の石核。 | |
| 窟屋1号墳 | 三木市志染町窟屋 | (主)平野三木線緊急道路整備事業 | 横穴式石室を主体部とする6世紀後葉の円墳。須恵器、鉄鏃等の他、金銅製卑鳳凰頭大刀柄頭。 | ひょうごの遺跡 42号で特集 |
| 福中城跡 | 神戸市西区平野町 | 一般国道175号平野拡幅事業 | 中世の城跡。 | |
| 西神ニュータウンNo.62号遺跡 | 神戸市西区榎谷町 | 一般国道2号(神戸西バイパス)改築事業 | 弥生時代後期・古墳時代後期の竪穴住居多数。奈良時代・中世の掘立柱建物等。 | 本号5頁 |
| 栃木遺跡 | 神戸市西区榎谷町 | | 中世の集落跡。 | |
| 明石城武家屋敷跡 | 明石市大明石町 | 神戸地方法務局明石支局新営工事 | 明石城武家屋敷の屋敷地南端の区画施設。 | |
| 塚口城跡 | 尼崎市塚口本町 | 都市計画道路尼崎伊丹線立体交差事業 | 塚口城南辺の堀。 | |
| 南本町遺跡 | 伊丹市南本町 | 都市計画道路尼崎港川西線道路改良工事 | 有岡城跡に近接。19世紀後半の水路等。 | |
| 有岡城跡・伊丹郷町遺跡 | 伊丹市伊丹 | | 有岡城惣構え線に相当する堀。16世紀後半～17世紀初頭の唐津焼碗。 | 本号5頁 |
| 岩屋遺跡他 | 伊丹市岩屋他 | 大阪国際空港周辺伊丹緑地整備事業 | 近世の水田、中世の柱穴、土坑等。 | |
| ニツ石茂ノ前遺跡 | 洲本市中川原町 | 県営ほ場整備事業(担い手育成型)ニツ石地区 | 弥生時代後期の竪穴住居13棟検出。淡路初の石杵。 | 本号4頁 |
| 中津原遺跡 | 洲本市下内膳 | 基盤整備促進事業(一般型)下内膳地区 | 弥生時代後期の竪穴住居。 | 本号4頁 |



学校から研修員として2年間埋蔵文化財調査事務所に在籍された尾野幸雄さんに、発掘現場などの経験を踏まえ、学校と埋蔵文化財との連携についてのコメントをいただきました。

学社融合という学校教育と社会教育の連携が唱えられ、施設利用などが進みつつありますが、まだまだ斥候が偵察に出かけるような様子見の状況ではないでしょうか。

学校教育側からの最大の壁は、学校の外へ出ていかなければならないことです。今までほとんどの学習を校内で完結させてきたため、抵抗を感じ、積極的になれない。また、まとまった時間が必要なので教科学習を圧迫しますし、情報が少ないので、集団活動と見学ぐらいしか思いつかない。しかし、ためらいがちな先生方の背中を「総合学習」が強く押しています。社会教育側はといえば、内容に自信を持つものの、単に大人向けのカリキュラムを簡単にしただけではない子どもたちへ近づく方法は手探りです。しかし、何を指導するとか、どこを評価するとか、先生や社会教育の担当者の思惑通りに進むような企画では、すぐに子どもたちに見破られてしまいます。ここは一つ素材の新鮮さで勝負すべきでしょう。

総合学習は入り口も出口も広いものです。様々な領域や教科にわたる活動の素材として、埋蔵文化財調査事務所に、もっと多くの利用や問い合わせがあってもいいはずなのですが。

学校で習う歴史は、蘇我馬子が〇〇年にどうしたというように、年号や有名な人物の名前や出来事の暗記が中心ですが、考古学は、無名の人々の公の記録に残っていない生活の痕跡を発掘し、歴史を考えます。ドラマチックではないけれど、変化し続ける等身大の歴史であり、地域に根ざしたものです。そして、出土した遺物や遺構から当時の様子を推理するには、さまざまな他の学問分野の知識が必要です。出土した木器の樹種は？石器の材質は？当時の気候は？といった疑問には自然科学の助けが必要です。また、物として残らない社会の様子や道具の使用法を復元するには、民俗学などの力も借ります。そういうわけで、埋蔵文化財は総合的に考え、判断する力を養うことに非常に適した教材の宝庫なのです。

汗を流して活動する。掘り出した歴史のかけらに目を輝かせる。情報を集め、推理する。そんな体験を子どもたちと分かちあってみませんか。学校と社会教育の枠組みに捕らわれすぎて、相手の出方だけを気にしているようでは何も出来ません。暗いニュースも不安材料ではあるでしょうが、かわいい子に旅をさせてみましょう。

お知らせ 普及活用班誕生！

平成14年度から、整理普及班が整理保存班と普及活用班に分かれ、新しく出発します。

兵庫県教育委員会では、県立考古博物館（仮称）構想がスタートし、当事務所でもこれに対応して、県民参加型の「地域文化財展」（但馬を皮切りに5か年で5か国を回る予定）や「考古楽者養成セミナー」（県立考古博物館の活動をサポートするボランティアの講座）など、さまざまな事業を企画しています。

これらの事業に、より多くの方々にご参加いただくことによって、遺跡や出土文化財を有効に活用するという私たちの使命を達成することができます。今後ともよろしくお願いいたします。



編集後記

桜などの花暦が、今年は例年より数週間早いペースで移り変わり、爽やかな風にも、もう梅雨の忍び寄る気配がしています。

今年も発掘調査・整理作業の成果をどんどんお伝えできる実り多い年でありますよう。

さて、ここで、前号のひょうごの遺跡42号についてのお詫びを申し上げます。2頁文中に、「揖保川町の黍田13号墳」とありますが、15号墳の誤りです。校正漏れで、まことに申し訳ございませんでした。(H)